

年齢層と Q14grニート期間 のクロス表

	1年以下	1年超～2年以下	2年超～3年以下	3年超～5年以下	5年超	合計
19歳以下	88.0	12.0				100.0
20歳～24歳	71.1	17.8	5.6	3.3	2.2	100.0
25歳～29歳	42.5	15.8	13.3	10.8	17.5	100.0
30歳～34歳	33.8	18.8	13.8	11.3	22.5	100.0
35歳以上	44.4	11.1		5.6	38.9	100.0
合計	51.7	16.5	9.6	7.8	14.4	100.0

7. 生活経験

11の項目を挙げてこれまでの生活経験を尋ねた。半数以上が経験していたのは「ハローワークに行った」75.8%、「面接を受けるために会社に電話した」68.2%、「就職の面接を受けた」64.8%、「学校でいじめられた」55.0%、「自分から会社を辞めた」55.0であった。

また、全体の半数弱が「ひきこもり」(49.5%)、「精神科又は心療内科で治療を受けた」(49.5%) 経験があることがわかった。なお、精神科又は心療内科での治療はもともとメンタル面の問題があってニート状態になったケースと、ニート状態になったことがメンタル面の問題につながったケースとがあると思われる。

Q15これまでの生活経験

学校でいじめられた	55.0
職場の人間関係でトラブルがあった	41.4
不登校(病気、ケガ以外で連続一か月以上学校を休むこと)になった	35.9
ひきこもり	49.5
精神科又は心療内科で治療を受けた	49.5
ハローワークに行った	75.8
ヤングジョブスポット、ジョブカフェ等に行った	44.0
面接を受けるために会社に電話をした	68.2
就職の面接を受けた	64.8
会社を自分から辞めた	55.0
会社を辞めさせられた	17.5

(注)「経験あり」の比率を表示

8. 苦手意識

一般的に就労に必要なと思われる基礎的スキル6項目について苦手意識があるかを尋ねた。「人に話すのが不得意」が64.4%と突出しており、対面コミュニケーションの苦手意識が目立つ。

26項目を挙げて就労に必要な生活行動の苦手意識を尋ねると、「面接に通る」(75.1%)、「面接で質問に答える」(64.8%)、「職場で友達をつくる」(64.6%)、「上司から信頼される」(64.1%) といった項目の苦手意識が目立つ。

一般的な対人関係を含め、コミュニケーションの苦手意識は今回調査されたニートの状態にある若者にかかなり広く共通する特性である。コミュニケーションの苦手意識が不登校、いじめ、ひきこもり、職場の人間関係のトラブルといったネガティブな体験につながり、苦手意識がさらに増幅されて就労が困難な状況に追い込まれたケースが多いと思われる。